

## NZドル高は調整局面を迎えよう

2020年6月19日

二宮 圭子  
シニアFXマーケットアナリスト  
SMBC信託銀行  
投資調査部

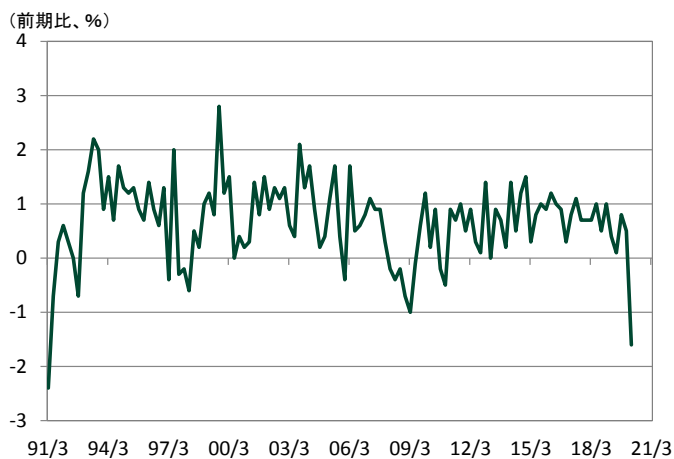


新型コロナウイルスの感染が急速に拡大するなか、ニュージーランド(NZ)政府は3月25日に国家非常事態を宣言。同26日には警戒レベルを最高の「レベル4」に引き上げロックダウンを開始、自宅での自主隔離や教育機関の閉鎖、スーパーマーケットや病院など生活に欠かせないサービスを除くビジネスの中止、など市民生活を制限した。その後、4月下旬に警戒レベルを「レベル3」、5月中旬には非常事態宣言を解除し「レベル2」に引き下げ、ショッピングモールやレストラン、公共施設の営業が再開された。6月初旬には「レベル1」に引き下げると発表、外国人の入国は引き続き禁止されたが(同12日に制限を緩和)、国内では旅行再開、屋内外での集会人数の制限が撤廃された。同国は人口500万人の小国だが、累計感染者は19日時点で1507人と比類ない低水準だ。

NZ政府が国家非常事態を宣言したのは2011年の大地震以来だが、3月17日に121億NZドル(GDP比4%相当)の企業への貸金助成制度、傷病休暇や自主隔離などの労働者への支給など経済支援策を打ち出した。4月15日には中小企業救済のための新たな支援策、5月14日には2020年度予算案で500億NZドルの復興基金創設を発表。既に実施された貸金補助や税負担軽減などを含むほか、企業支援や職業訓練、インフラ開発投資など雇用維持・創出を中心に必要に応じて投じられる。GDP成長率見通しについて、NZ財務省は2020年度がマイナス4.6%に落ち込むが、2022年度には8.6%へ急回復すると予想する。

1-3月期のNZ実質GDPは前期比1.6%減と2010年10-12月期以来のマイナス成長で、29年ぶりの大幅な落ち込みを記録。個人消費の減速と設備投資の低迷が成長を下押しした。同国政府が国家非常事態を宣言したのが3月25日であることに鑑みれば、4-6月期は一段と悪化し景気後退入りは確実と市場は見込む。NZ中銀(RBNZ)は3月16日の金融政策委員会(MPC)で0.75%の緊急利下げを決定、政策金利は過去最低の0.25%に引き下げられた。5月13日のMPCでは資産買い入れ規模を600億NZドルへ倍増し、緩和姿勢を強化した。オアRBNZ総裁は、「現時点では量的緩和が最善の政策手段だ」としながらも、マイナス金利の導入については、「運用上の課題がある」として検討を続ける姿勢を示した。6月24日のMPCは既往の政策効果を見極め、政策金利は据え置かれる可能性が高いだろう。主要国に先んじてNZ政府は経済活動の再開に着手したことで、景気先行きへの期待が高まりNZドル高は進行したが、新型コロナウイルス感染「第2波」への警戒感根強く、6月のNZドル米ドルは0.63米ドル台後半から0.65米ドル台後半、68円台前半から71円台後半で「往って来い」の動きとなり下値警戒感がくすぶる。オアRBNZ総裁が次回MPCでマイナス金利導入は選択肢の一つだが、近い将来の可能性はないとの見解を示せば、NZドルは週足一目均衡表の基準線0.6113米ドル、66円53銭を下値メドに底入れ感を探ろう。

【図表1】 ニュージーランド実質GDP



(出所)NZ統計局、SMBC信託銀行

【図表2】 NZドル円のローソク足チャート(週足)



(出所) BloombergのデータをもとにSMBC信託銀行作成